

看護学部
ENDO Toshiko
PROFILE
職名
看護学部 看護学科教授
学歴
北里大学大学院医療系研究科臨床医科学群産婦人科学専攻博士課程修了（2002）
学位
博士（医科学）（北里大学、2002）
所属学会
日本看護科学学会、日本生殖看護学会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会、日本助産学会
専門分野
母性看護学、助産学

遠藤 俊子

えんどう としこ

研究課題1●ハイリスク妊産褥婦ケア

研究課題2●助産師のキャリア発達

研究課題3●産科医療（周産期医療）提供システム

業 績

【著書】

『不妊相談のためのマニュアル』／母子衛生研究会、2006年、共著。

『母性看護実践の基本―母性看護学』／メディカ出版、2007年、共著。

『助産学概要論、助産学講座1』／医学書院、2008年、共著。

『助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア』／日本看護協会出版会、2009年、共著。

『助産師基礎教育テキスト第1巻助産概論』／日本看護協会出版会、2009年、共著。

『新版助産師業務要覧増補版3刷』／日本看護協会出版会、2009年、共著。

「院内助産システムガイドブック」／医歯薬出版、2010年、共著。

【学術論文】

「中高年女性の健康状態測定のための既存尺度の信頼性・妥当性の検証と健康問題の抽出に関する研究」／『山梨県立看護短期大学紀要』1巻1号、1996年、共著。

「第3子出産直後から3才に至るまでの育児観および育児能力の変化―第1報：生後6ヶ月まで―（笹川科学研究助成7-049）」／『笹川科学研究助成研究年報』、1996年、共著。

「第3子を出産した母親の出産動機」／『母性衛生』Vol.38 No.4、1997年、共著。

「中年有職者女性の健康に関する調査―東京・静岡・山梨の3地域調査―」／『大和証券ヘルス財団助成による研究業績集』第21集、1997年、共著。

「慶應式中高年健康維持外来調査表の信頼性・妥当性の再検証」／『山梨県立看護短期大学紀要』Vol.3、1998年、共著。

「看護ケア構造指標の開発と検討試案作成まで」／『看護研究』Vol.31 No.2、1998年、共著。

「看護ケア構造指標の開発と検討試案のプレテスト結果から」／『看護研究』Vol.31 No.2、1998年、共著。

「0から3歳頃までの双胎児のいる母親の育児支援に関する検討―単胎児との比較―」／『山梨医大紀要』16巻、1999年、共著。

「第3子出産に関する縦断的研究―出産後1ヶ月における母親の育児観―」／『母性衛生』Vol.40 No.4、1999年、共著。

「第3子出産に関する研究―妊娠の計画性と出産時の反応および出産1ヶ月までのサポート状況―」／『母性衛生』Vol.41 No.1、2000年、共著。

「第3子出産後2年間にわたる母親の育児体験に関する縦断的記述研究」／『山梨県立看護大学紀要』第2巻 第1号、2000年、共著。

「双胎妊婦の妊娠期入院の体験に関する研究」／『日本母性看護学会』Vol.1 No.1、2000年、共著。

「訪問看護ステーションにおける子育て支援事業」／『保健の科学』Vol.43 No.12、2001年、共著。

「新生児訪問指導を受けた母親に関する記述研究」／『山梨県立看護大学紀要』4、2002年、共著。

「産褥母子訪問時における母親の「子どもの泣き」の訴えの実態」／『山梨県立看護大学紀要』4、2002年、共著。

「山梨県内にある2病院の早産の実態と看護への示唆」／『山梨県立看護大学紀要』5、2003年、共著。

「母親の子育ての体験を構成する要素の質的研究」／『山梨県立看護大学紀要』5、2003年、共著。

「出産体験満足度および自尊感情の変化とマタニティブルーズ、産褥うつとの関連」／『山梨県母性衛生学会誌』Vol.4 No.1、2005年、共著。

「育児期の両親の精神健康度に関する縦断的研究―正期産児と低出生体重児の比較―」／『山梨県母性衛生学会誌』Vol.5 No.1、2006年、共著。

「若い成人期にある初産婦の特徴からみた養育力の要因とその構造」／『山梨県母性衛生学会誌』Vol.5 No.1、2006年、共著。

「母性看護の研究の動向と今後の課題」／『山梨県母性衛生学会誌』Vol.5 No.1、2006年、共著。

「助産師養成に求められる教育―教育の立場から―」／『インターナショナル・ナーシング・レビュー』128号、2006年、単著。

「青年期にある看護系女子学生のSTDの知識と性行動に関する研究」／『母性衛生』Vol.47 No.3、2006年、共著。

「PSQ―Jの信頼性と妥当性に関する研究」／『日本母性看護学会誌』Vol.7 No.1、2007年、共著。

「1ヵ月の子どもを育てる母親の育児困難感」／『山梨大学看護学会』Vol.5 No.1、2007年、共著。

「母親の育児幸福感―尺度開発と妥当性の検討」／『山梨大学看護学会』Vol.27 No.2、2007年、共著。

「子育て期をより幸福に過ごすための母親の工夫とその効果」／『日本助産学会誌』Vol.21 No.2、2008年、共著。

「妊婦が抱く育児に対するイメージ―第一子を育児中の母親との比較から―」／『母性衛生』Vol.48 No.4、2008年、共著。

「母親の育児幸福感を高めるプログラムの実施と評価」／『日本看護科学学会誌』Vol.29 No.1、2009年、共著。

「初産婦の産後早期の看護介入面談が産後うつに及ぼす効果―感情表出に焦点をあてて―」／『日本母性看護学会誌』Vol.9 No1、2009年、共著。

「早産児の経口哺乳準備期間における口腔刺激プログラムの有効性に関する検討」／『日本新生児看護学会』Vol. 5 No2、2009年、共著。

「不妊症看護認定看護師の活動に関する実態調査」／『日本生殖看護学会』Vol.6 No.1、2009年、共著。

「助産師が感じる‘未熟感’に影響する要因の検討―助産師のキャリア発達に関する研究から―」／『日本看護関係論文集母性看護』第40回、2009年、共著。

「分娩体制を再構築する院内助産システム」／『周産期医学』東京医学社、Vol.40 No1、2010年、単著。

「安全を確保した院内助産システムの推進」／『日本周産期・新生児医学会』Vol. 28、2010年、単著。

【国際学会発表】

「Aspects of Current Japanese Obstetric Health care and Experietations for midwires」／第8回ICNアジア太平洋地域会議（セブ）、2006年、単独。

「The Relationship between Japanese Mother’s Childcare Happiness and Their Employment Status」／第7回国際教育研究学会（ソウル）、2006年、共同。

「Japanese Nursing Association (JNA)’s Efforts to Promote In-Hospital Midwife-Led Care System 日本看護協会の院内助産システムへの取り組み」／第9回国際助産師連盟アジア太平洋地域会議、2009年、単独。